

銅鐸 — 西の谷遺跡出土 —

最新の探査技術によって発見された、西の谷遺跡出土銅鐸。描かれた精緻な文様からは、弥生時代の鑄造技術の高さがうかがえます。

静岡県内では、発掘調査によってこれまでに数え切れないほどの多くの遺物が出土しています。これらはいずれも、私たちの先人達が残してくれた重要な文化財です。

このコーナーでは、その中でも特に貴重な出土品を紹介していきたいと思えます。

稀少な調査事例

銅鐸は教科書にも必ずと言っていいほど写真が掲載されている、非常にメジャーな出土品の一つです。

しかし、人里離れた山中などから偶然に発見されることが多く、発掘調査で出土することは、実はごくまれなことなのです。

西の谷遺跡では、明治時代に2個の銅鐸が出土したことが知られていました。第二東名建設に関わる調査の対象となったため、発掘調査に先立って、電磁法探査及び金属探知機による地中探査が行われました。その結果を受けて実施された発掘調査により、埋納されたままの状態で見ることができました。



銅鐸の出土状況



精緻な文様



鋸歯文や綾杉文などの文様が、まさにミリ単位の細かさで表面全体に描かれています。

【銅鐸】

銅鐸は、弥生時代の青銅製品で、祭祀の道具として使われていました。

その祖型は、朝鮮半島の小銅鐸であると考えられています。小銅鐸は、音と光を発して邪悪なものを退け、神を招く楽器でした。

わが国では、紀元前2～3世紀頃から近畿地方を中心に用いられるようになりました。



銅鐸の内側

展示会や本などでよく目にする銅鐸ですが、内部の様子を見た事のある方は少ないのではないのでしょうか？

銅鐸の内側には、帯状の高まりがつけられています。銅鐸を揺らすと、内側に吊した棒がここに当たり、音が奏でられます。元々銅鐸が楽器であったことがわかります。